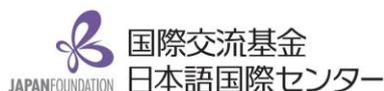


読解の教え方

Unit 1 準備 Part 1 生活の中の「読み」



1. はじめに

「読解の教え方」について考える前に、このパートでは一般的な読むこと、つまり生活の中の読みについて考えます。私たちは、毎日の生活の中でどんなテキストをどのように読んでいるでしょうか。読む活動の種類やレベル、読解力をどのように考えたいでしょうか。

このパートのキーワード

読む目的 読み方 かだいすいこう 課題遂行 読解力

なお、このコースでは、テキストとは文字で書かれたもの、生活や学習の中で読むもの、すべてを指します。

2. 生活の中の「読み」

私たちは、毎日、母語でも外国語でもたくさんのテキストを読んでいます。何を、どんな目的で、どのように読んでいるでしょうか。生活の中の「読み」の例を見てみましょう。

朝起きて、出かける前にスマホで天気予報をチェックします。今日、行く場所の天気、つまり必要な情報じょうほうを探して、その情報からかささがを持っていくかどうか、何を着て行ったらいい

かを考えます。

通勤の電車の中でも、会社でも、インターネットのニュースをよく見ます。でも時間がたくさんあるわけじゃないですから、まずタイトルや見出し^{みだ}を見て、おもしろそうなニュースがあったら、開けてざっと読みます。だいたい^{ないよう}の内容がわかったらいいので、途中^{とちゅう}を飛ばしながら読むことが多いです。

ソーシャルメディアもよく読みます。友達から来るのは、だいたいは今、何してるとか、おしゃべりのようなものです。短いですからぱっと見て、こっちも短く返事をすることがあります。

じっくり読むのは、仕事の連絡^{れんらく}やレポートです。大事なところに線を引いたりメモをとったりしながら読みます。知らないことばやわからないことがあったら、インターネットで調べたり、後でほかの人に聞いたりします。

休みの日や時間があるときには小説も読みます。登場人物^{とうじょうじんぶつ}の気持ち^{きもち}を想像^{そうぞう}したり、続きを予想したりして、楽しく読みます。知らないことばがあったら、意味^{いみ}を推測^{すいそく}して、知っていることばに置きかえて読みます。

皆さんの生活の中の「読み」と同じものがありましたか。

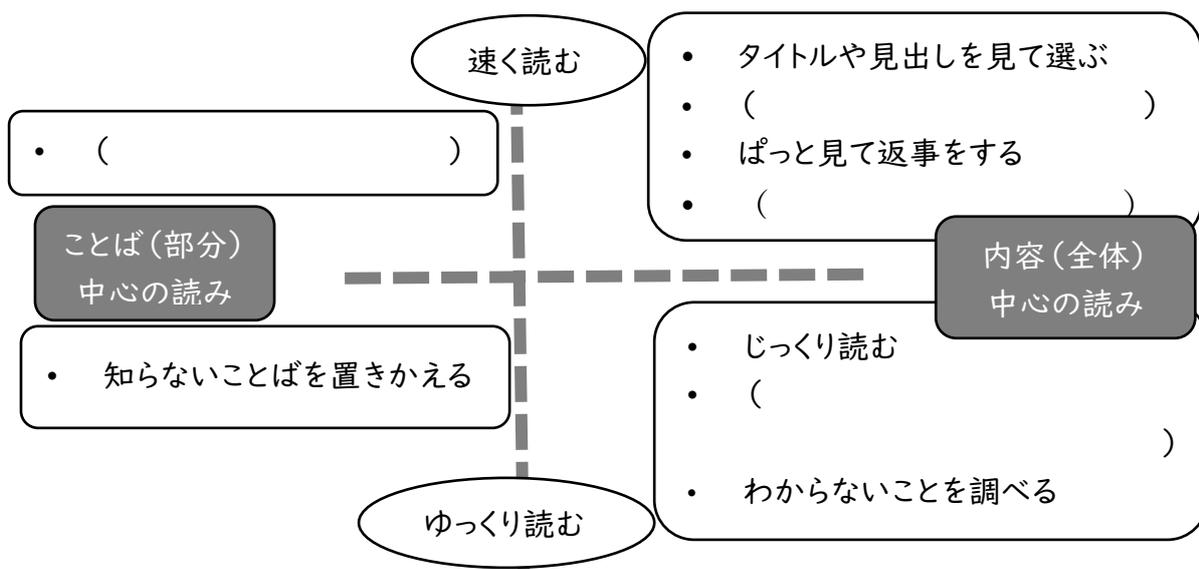
【タスク 1】 上の例を表に整理^{せいり}してみましょう。

テキスト	読む目的	読み方
天気予報	じょうほう 情報	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を探す

インターネットのニュース	情報	<ul style="list-style-type: none"> • タイトルや見出しを見て選ぶ • ()
()	こうりゅう 交流	<ul style="list-style-type: none"> • ()
仕事の連絡やレポート	()	<ul style="list-style-type: none"> • じっくり読む • () • わからないことを調べる
小説	()	<ul style="list-style-type: none"> • () • 知らないことばを置きかえる

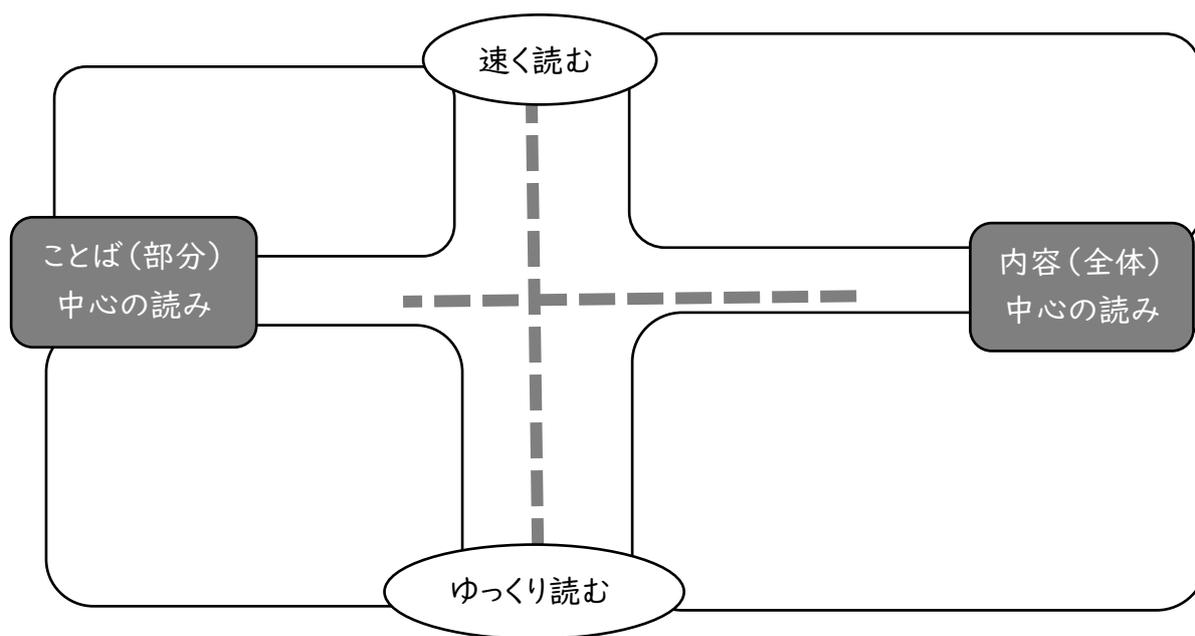
では、いろいろな読み方を2つの観^{かんてん}点で分けてみましょう。まず、読む速さの観点です。速く読むのは、大事なことだけをつかもうとする読み方です。ゆっくり読むのはできるだけくわしく、細かく読むことです。もう一つは、ことばや部分的な情報中心か、内容や全体の理解中心かという、注目する部分の広さの観点です。

【タスク 2】 タスク 1 の「読み方」を速^{ちゆうもく}さと注目する部分の広さに分けて考えてみましょう。



【タスク 3】 タスク 1、2 と同じように、あなたの生活の中の「読み」についてまとめてみましょう。

テキスト	読む目的	読み方



3. 読解力とは (JF 日本語教育スタンダードの考え方から)

読解力、つまり読む力について、JF 日本語教育スタンダード (JFS) を使って考えてみましょう。JFS は、日本語教育の目標設定や能力評価^{もくひょうせってい のうりょくひょうか}を考えるために作られたツールです。JFS

では、さまざまな日本語のコミュニケーション、つまり生活の中での課題遂行^{かだいすいこう}を目標にしています。課題というのは、読むことについて言うと、読む目的になります。では、読むことはどのように^{あらか}に表されているか、JFSの木で見てみましょう(図1)。

(1) 読む活動「コミュニケーション言語活動」:木の枝の部分^{えだ}

読む活動は、「情報を探し出す」「情報や要点^{ようてん}を読みとる」「手紙やメールを読む」などのカテゴリーに分かれています。

(2) 活動を行うときの方略、ストラテジー:木の枝の部分^{えだ}

わからないことばや書き手が言いたいことなどを推測^{すいそく}することがあります。

(3) 読むために必要な言語の知識「コミュニケーション言語能力」:木の根の部分^ね

文字や語彙^{ごい}、文法の知識は読むために大切なものです。でも、それだけでは長いテキストを読んで理解することはできません。テキストの中で使われている接続詞^{せつぞくし}や指示詞^{しじし}の意味や役割^{やくわり}が正しく理解できる能力や、テキストの構成^{こうせい}や意見の展開^{てんかい}などのディスコースの能力も必要です。

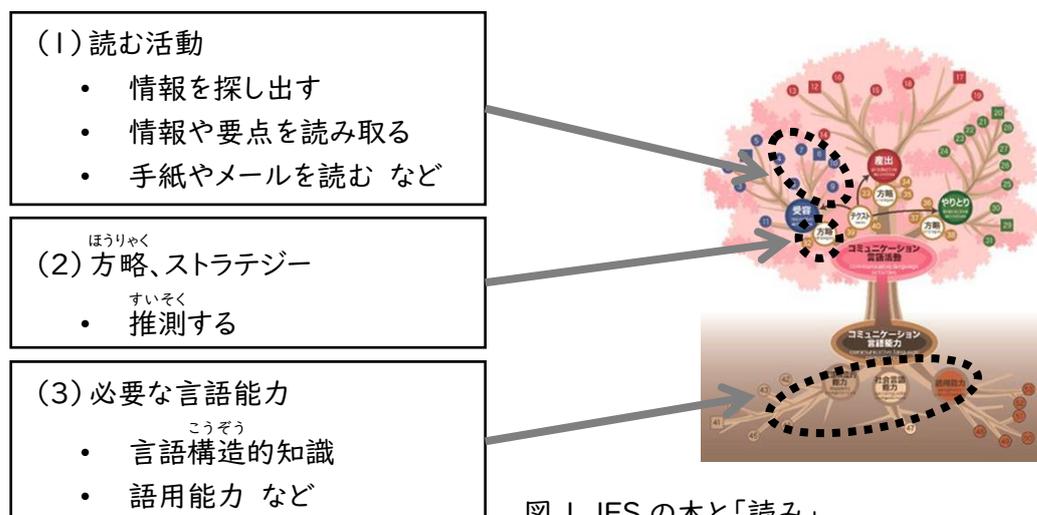


図1 JFSの木と「読み」

(4) レベルと読むテキスト、読み方

JFS は、日本語のレベルを 6 つに分けています(図 2)。読むことについては、6 つのレベルでどんなテキストがどのように読めるかをしめています。例えば、A1 では、ポスターやカタログなどが読めます。B1 では、日常生活や自分の仕事について書かれたテキストを読むことができます。レベルが上がると、テキストは長く、複雑になっていきます。内容も、身近で具体的なものから、専門的なものや抽象的なものになっていきます。

また、読み方もレベルによって変わっていきます。知っていることばや短い簡単な文がわかるレベルから、事実がわかる、意見が読み取れる、文体の違いも認識でき、どんなテキストも苦勞しないで読めるようになります。

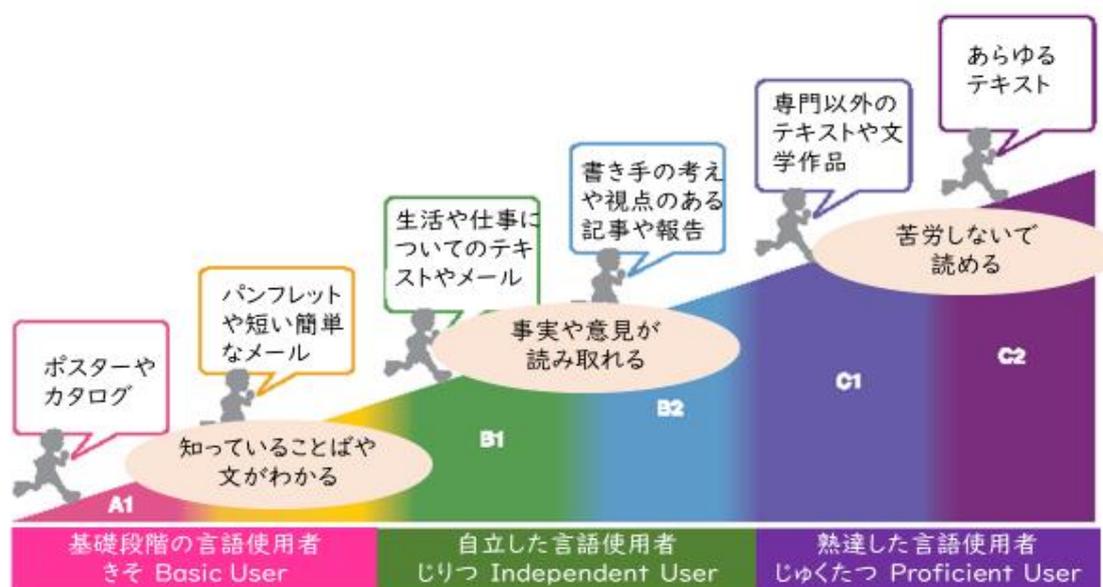


図2 JFS のレベルと読み

このように、JFS を参考^{さんこう}に考えてみると、読むこととは目的を持った活動、つまり課題^{かだい}

遂行すいこうだと言えます。そして、読解力とは、「目的に合った読み方をして、読む目的が達成たっせいできる能力」だと考えることができるでしょう。

4. まとめ

生活の中の「読み」では、私たちはさまざまなテキストをさまざまな読み方で読んでいます。

そして、私たちは読む目的に合わせて読み方を変えています。

さまざまな読む目的や読み方を日本語のレベルごとにしめすものとして、JF 日本語教育スタンダード (JFS) があります。JFS を使うと、読む目的を課題遂行かだいすいこうととらえて、課題遂行に必要な言語能力やストラテジーも考えることができます。このコースでは、JFS の考え方を利用して、読解力とは「目的に合った読み方をして、その目的を達成たっせいできる能力」と考えていきます。

【タスク4】あなたの授業では、読解力をどのように考えていますか。そのために授業じゅぎょうで何を、どのように教えていますか。簡単にまとめてください。

読解力	
教えていること	

■ このパートの参考文献と参考サイト

- 国際交流基金(2006)『読むことを教える』(国際交流基金 日本語教授法シリーズ7)

ひつじ書房

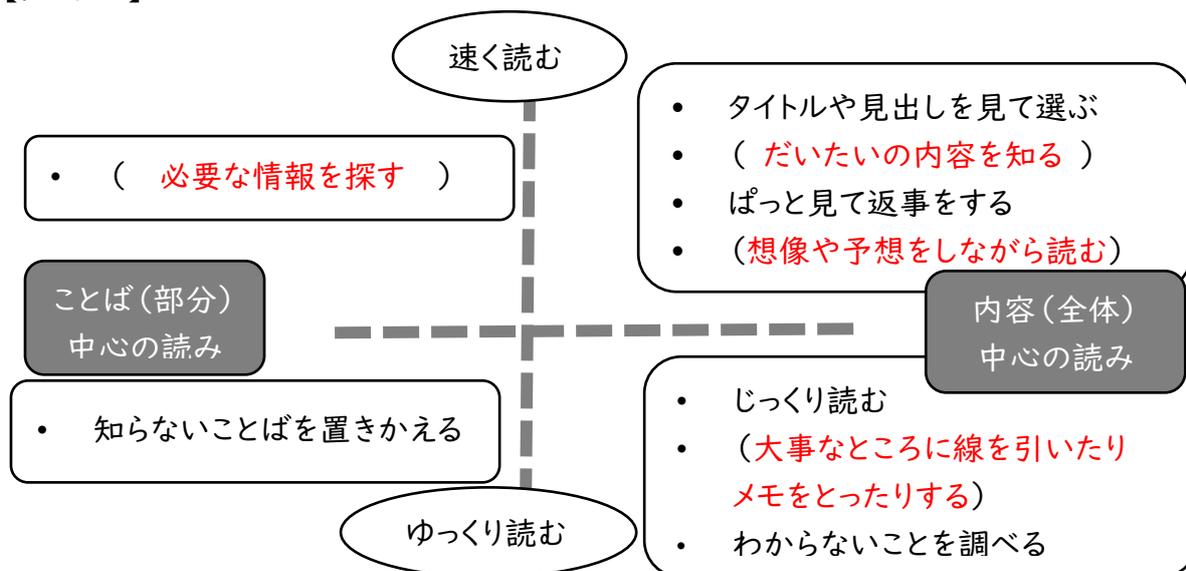
- 「JF 日本語教育スタンダード」 <https://www.jfstandard.jp/g.go.jp/>

■ タスクの答え

【タスク 1】

テキスト	読む目的	読み方
天気予報	情報	<ul style="list-style-type: none"> 必要な情報を探す
インターネットのニュース	情報	<ul style="list-style-type: none"> タイトルや見出しを見て選ぶ (だいたいの内容を知る)
(ソーシャルメディア)	こ ^う り ^ゆ う 交流	<ul style="list-style-type: none"> (ぱっと見て返事をする)
仕事の連絡やレポート	(情報)	<ul style="list-style-type: none"> じっくり読む (線を引いたり、メモをとったりする) わからないことを調べる
小説	(楽しみ)	<ul style="list-style-type: none"> (想像や予想をしながら読む) 知らないことばを置きかえる

【タスク 2】



【タスク 3】(答えなし)

【タスク 4】(答えなし)